

# 令和元年度宇治市の家計簿

普通会計の歳入・歳出決算額を1/10,000にして、  
一般家庭に例えると・・・

前年度からの  
増減

具体的には・・・

## ○収入

給与などの収入	509 万円 (+15 万円)	市税、譲与税、交付金、使用料など
親からの仕送り	74 万円 (+3 万円)	地方交付税
ローン (家・車の購入のため)	24 万円 (+2 万円)	道路・河川の整備、学校改修などの資金
ローン (生活資金のため)	22 万円 (-5 万円)	臨時財政対策債
預貯金の引き出し	2 万円 (±0 万円)	基金繰入金
繰越金	4 万円 (-1 万円)	繰越金



収入合計 635 万円 (+14 万円)

前年度からの  
増減

具体的には・・・

## ○支出

生活費など	262 万円 (+3 万円)	人件費、扶助費、維持補修費など
子どもの教育費など	158 万円 (+3 万円)	教育費、民生費のうち児童福祉費
保険料・下水道費用	84 万円 (+10 万円)	国保特会、公共下水道事業などへの繰出金
家や車の購入	42 万円 (-1 万円)	道路・河川の整備、学校改修費用など
貸付金など	24 万円 (±0 万円)	貸し付け事業の費用 (年度末には返金)
預貯金の積み立て	4 万円 (-2 万円)	基金への積立金
ローンの返済	54 万円 (-1 万円)	公債費



支出合計 628 万円 (+12 万円)

差し引き 7 万円 (+2 万円)

ローン残高 435 万円 (-5 万円) 年度末の市債残高

預貯金残高 90 万円 (+2 万円) 年度末の基金残高

## 令和元年度の家計は・・・

昨年度と比べて、生活費や保険料・下水道にかかる経費などが増えましたが、給与などの収入が増えたことから、預貯金の積み立てを行うことができました。

今後も生活費は増えることが見込まれているほか、家や車についても老朽化が進んでおり、修繕や改修などに伴う支出も増える見込みです。

このように、厳しい状況が続くことが見込まれていることから、生活費の抑制はもちろんのこと、その他の支出についても無駄がないか徹底的に見直し、ローンの借りに無理がないのか、預貯金の残高にも気を配りながら、家計の安定に向けて、引き続き努力や工夫が必要です。

なお、ローン残高は若干の減少となる一方で、預貯金の積み立ても行えたことから、預貯金残高は前年度より増加しました。今後も将来の支出に備えて、預貯金の積み立てを行っていくことが必要です。

(市民一人あたりローン及び預貯金残高の推移) (単位：円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
ローン残高	234,429	234,883	233,774
預貯金残高	44,151	47,128	48,479

